

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

史学専攻 東洋史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野では、課程修了時に大学院生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（史学）の学位を与える。

1. 史学専攻東洋史学分野において定められた博士論文の執筆資格審査に合格した上で、中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の研究を内容として博士論文を執筆し、定められた手続きに則った審査に合格し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与をなし、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野に関する最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、日本語および外国語で国内外に成果を発信して当該分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 異文化の歴史的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度なリサーチの能力、プレゼンテーションの能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーと国際感覚を備えた社会人、研究者、教育者として日本社会のみならず地球社会の発展に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、以下のカリキュラムを編成する。

1. 中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の諸領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心とした諸科目を履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチの能力と課題発見の能力、さらには関連外国語による高度な論述力を養う。また史学専攻東洋史学分野が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引」に則って、博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「手引」に定められた論文公刊の条件を満たしている必要がある。
2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて

学会に対して独自の貢献をするために必要な高度のリサーチ能力、課題発見の能力、研究資料の分析力、議論の構成力を養成するため、日本語による特殊研究科目を設置する。また、研究成果を学会や専門誌において発表することを目的として具体的な指導を行う。

3. 個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につけることを補助するために、文学研究科による留学制度、慶應義塾大学国際センターを通じての交換留学、さらに学内外の各種留学制度などを活用した、海外の大学院への博士学位取得を目的とした長期留学、あるいは単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野の後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自らの研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら策定し、日本語または英語でまとめることができる。
3. 中国語あるいは中東諸語、英語をはじめとした主要なヨーロッパ言語の研究資料を正確かつ批判的に読むことのできる分析的な読解力、独創的な学術的論考を緻密に作成する能力を身につけている。
4. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。